

今回は、社員研修で有名な朝倉千恵子さんのお話を紹介します。

最初に社会人としての気構え・心構えをガッチリ教えられ職場に配属される新人、学生気分の延長で会社にくる新人、長い人生で大きな開きが出ます。能力に大差はない。しかし、どんな教育を受けるかでその後の人生が決まります。今日は【新入社員の2つの物語】を綴らせて頂きます。

ある企業の守衛さん「おい、見てろよ。きっとあの新人が将来この会社の社長になるぞ！」と仲間の守衛さんに話をした。「そんなのわかるものか？なんで彼なんだい？」「お前たちにはわからないだろうな。しかし、俺にはわかる・・・」きっと30年後には彼は絶対に社長になっていると守衛さんが断言したのです。その会社には毎年200名以上の新人が入る。その年も230名の新人が入ってきた。社員は正面玄関ではなく社員通用口から出入りをする。守衛さんはなぜその青年を将来の社長と予言したのか？

ピンとくる人は恐らく一瞬でわかりますね。そうです。彼だけが毎日守衛さんたちに挨拶をしたのです。「なんで彼なんだい？」と言う仲間の守衛さんに「いいか、俺たちのような守衛にまで、あれだけ気持ちよく挨拶する人は絶対にどこにいても可愛いがられる。上司にも先輩にもお客様にも。だから30年後はきっと彼がこの会社の社長になることは間違いない！」そう断言したのです。

それから32年、その予言は的中。しかし、その守衛さんはもうこの世にはいませんでした。これはとある、上場会社の社長物語・・・。数多くの新人の中で群を抜いて評価されたその青年は誰よりも挨拶が徹底されていたのです。

かたや・・・もう一人の新入社員。同じく230名の新人が入社式に並んだ。皆緊張した面持ちで・・・。社長が新人に向け非常に熱い訓話を述べたその後、たった一人名指しで名前を呼んだ。「* *くん！」その青年は「はい？」と答えた。さて、その後の青年の運命は？青年は、私にこう話してくれました。

「一生悔んでいるのです。社長はたった一人僕だけを指名してくれた。それなのに僕は・・・

「はい！！」ではなく「はい？」と答えてしまったのです。」もちろん、失敗から学んだその青年も、部下を指導育成する立場になった時、自らの教訓を生かし、新人たちに熱い思いをぶつけている。礼儀礼節を徹底して出来る人は、敵をつくりません。一貫性のある姿勢態度を取れる人は、愛されます。「初対面を制する人が人生を制する・・・」という意味はもっと深いところにその理由がある。ここを知るか知らないかでは当然、周囲の評価が大きく変わる。例外なく周囲から信頼され評価されている人財は礼儀正しい。礼儀は、まさに「生きる力」であり「知恵」である。教育に力をいれている会社は「いざ」というとき強い。経営者が私利私欲に走る会社は、いざというとき、もろい。教育には根気がいる。天性・天然で売れていても、その才能に磨きを常にかけようと研鑽している人には勝てない。教育には根気がいる。自分の子供だったら？きっと惜しまず教育に力を入れるだろう。部下の頑張り、社員の成長抜きにして企業の永続的な繁栄はあり得ない。教育の重要性を今一度深く心に刻む新人たちを見て本当に無限の可能性を秘めていると確信する。だからこそ善い上司に巡りあってほしいと手を合わせる・・・

Q1：守衛さんが、よい新入社員を見分ける方法は何だと言っていますか？

A1：（ ）

Q2：あなたが後輩・子供・同僚・上司の教育に一番大事だと思う事は何ですか？

A2：（ ）